



証券コード: 7963

2019年12月期 決算説明資料

「世の中にない」「真に役立つ」
それが、私たちの研究開発の出発点です。

クリーン、ヘルス、セーフティで社会に

 **興研株式会社**

営業の成果

当連結会計年度(2019年1月～12月)は、米中間の貿易戦争とハイテク摩擦の激化が中国経済を下押しし、また、英国のEU離脱をめぐる混乱などによって世界経済は減速して推移する中、国内景気はそれらの影響を色濃く受け、生産・輸出の鈍化を主因に特に後半は弱含みで推移しました。

このように極めて大きく変動した経営環境の中で、当社グループでは『クリーン、ヘルス、セーフティ』各市場において掲げた重点施策への取り組みを徹底して進めました。その結果、産業向けマスクは順調に売上を伸ばし、下半期から市場投入した内視鏡洗浄消毒装置の第2世代機「鏡内侍ⅡG」の販売も好調な滑り出しを見せ、当連結会計年度の実績は、売上高86億5百万円(前連結会計年度比3.3%増)、営業利益5億67百万円(同21.7%増)、経常利益5億28百万円(同25.7%増)、親会社株主に帰属する当期純利益3億71百万円(同3.5%増)となりました。売上高、利益ともに期初計画を達成し、前連結会計年度に対し増収増益という結果でした。セグメント別の業績は以下の通りです。

(マスク関連事業)

産業用の防じんマスク、防毒マスク、電動ファン付き呼吸用保護具の販売が期を通して安定的であったことに加えて、“呼吸追従システム”などの最新技術を搭載した自衛隊装備品次世代防護マスク「18式」も計画通り納入が完了したことにより、売上高は75億12百万円(同4.9%増)となりました。

(その他事業／環境関連事業等を含む)

オープンクリーンシステム「KOACH(コーチ)」については、『アクチュアルクリーン(実際の作業時の清浄度)』及び「KOACH」導入による管理・コスト負担の緩和を訴求する営業活動を全国の代理店と協働して行って参りました。年度前半は順調に売上を伸ばしましたが、後半、企業の設備投資に急ブレーキがかかり、それに同調する様に大型機種「フロアーコーチ」において、中止もしくは先送りとなった案件が複数で発生しました。その結果、販売件数、販売台数、売上高、それぞれ前年度を上回る実績を確保いたしましたが、昨年までの伸び率を維持することはできませんでした。

7月発売の内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍ⅡG」は、従来の“自動ブラッシング機能”に加え、医療現場における検査、作業の軽減・効率化及び省スペース化等の新機能が高く評価され、順調に売上を伸ばしました。一方、官庁向け浄化装置の受注が半減した影響により、その他事業全体の売上高は10億92百万円(同6.0%減)となりました。

連結業績の概要

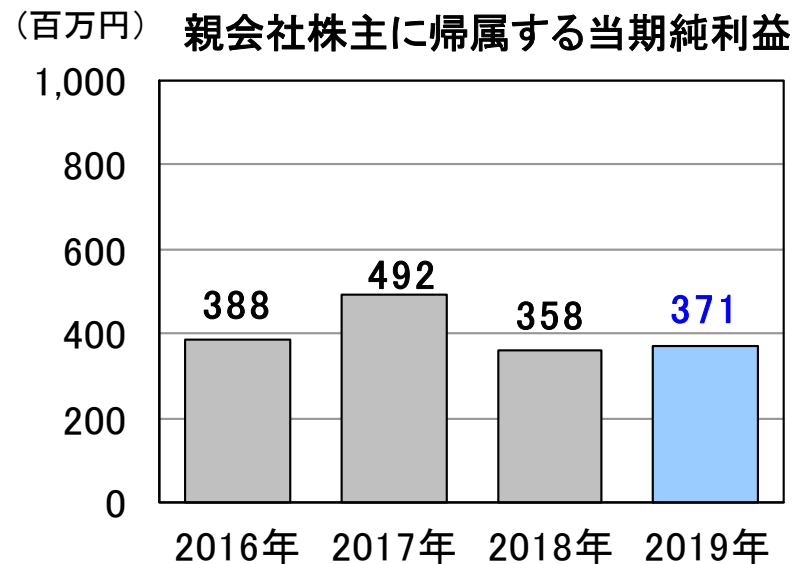
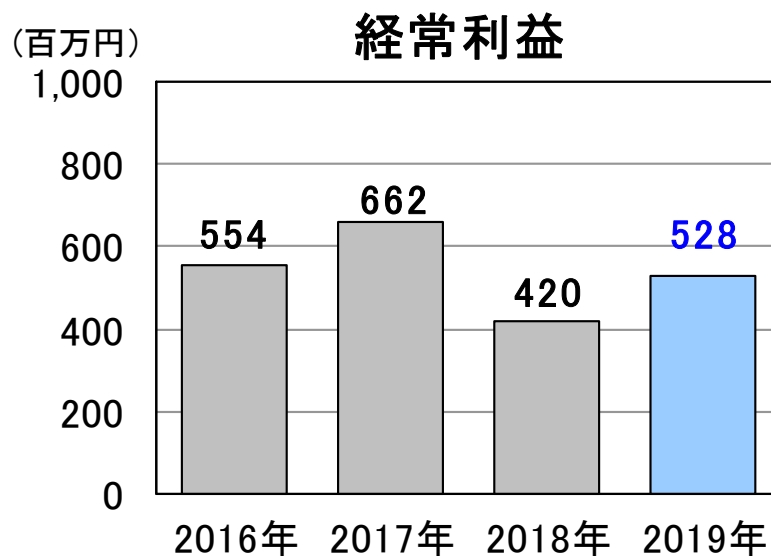
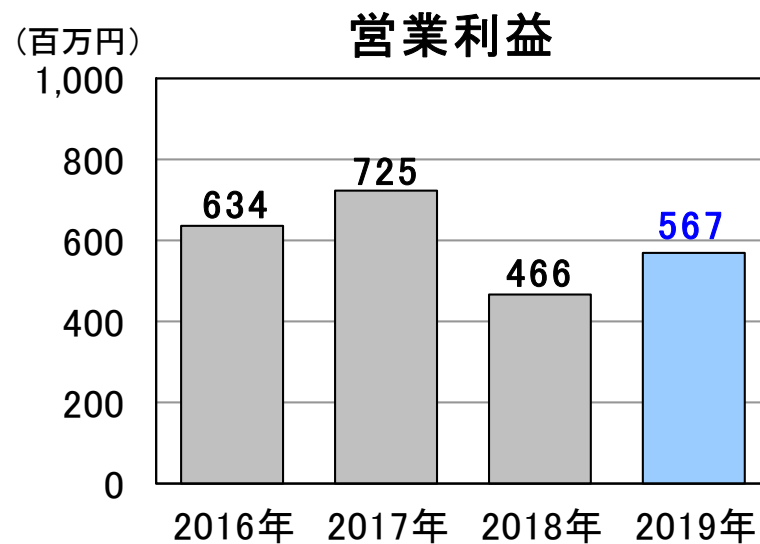
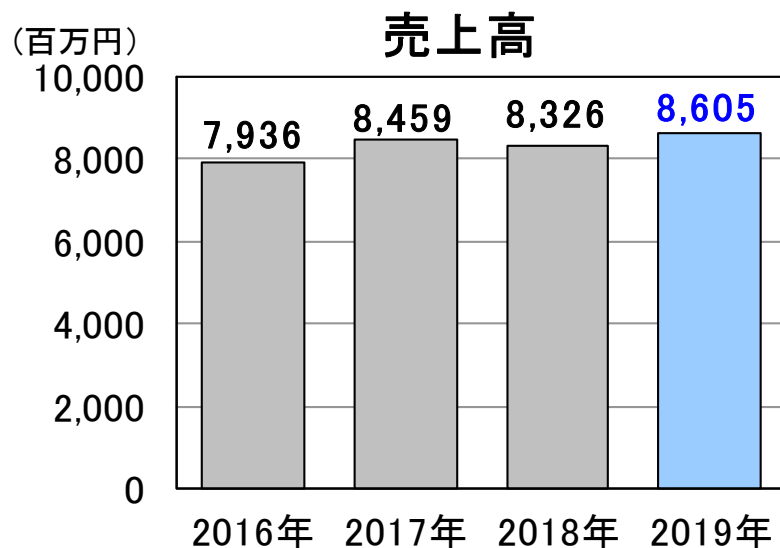
(単位:百万円/端数切り捨て)

	2018年12月期		2019年12月期	
	金額	比率(%)	金額	比率(%)
売上高	8,326	100.0	8,605	100.0
売上総利益	3,884	46.7	4,043	47.0
営業利益	466	5.6	567	6.6
経常利益	420	5.1	528	6.1
親会社株主に帰属する当期純利益	358	4.3	371	4.3
1株当たり当期純利益(円)	71.55	—	74.21	—

	2018年12月末	2019年12月末
総資産	18,915	18,338
負債	9,328	8,542
純資産	9,587	9,796
自己資本比率(%)	50.7	53.4
1株当たり純資産(円)	1,911.51	1,956.95

連結売上高・利益の推移

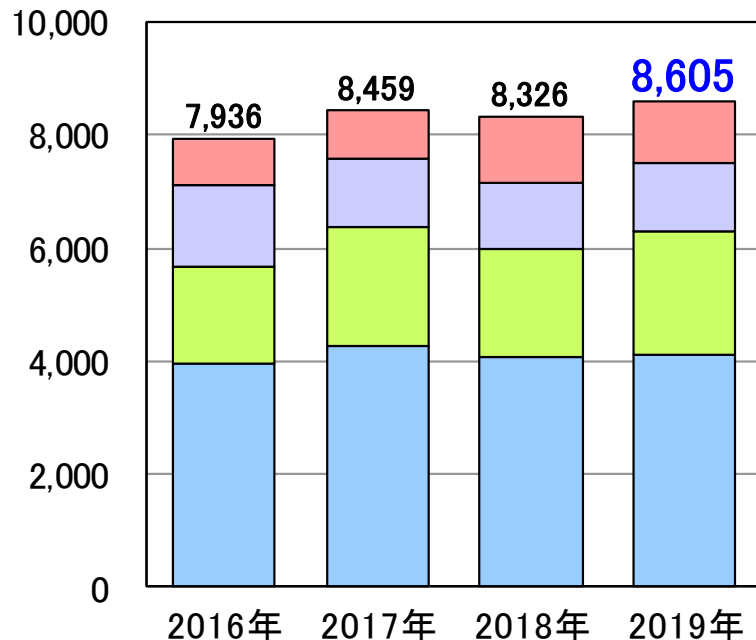
(単位: 百万円 / 端数切り捨て)



連結セグメント別売上高の推移

(百万円)

(単位:百万円/端数切り捨て)



事業の状況

マスク関連事業(■防じんマスク、■防毒マスク、■マスク関連その他製品)産業用の防じんマスク、防毒マスク、電動ファン付き呼吸用保護具の販売が期を通して安定的に推移しました。

“呼吸追随システム”などの最新技術を搭載した次世代防護マスク「18式」は計画通り納入を完了しました。これにより、当社グループは、「4形」、「00式」に次いで「18式」と3世代の防護マスクを続けて納入することとなりました。

■ その他事業 (環境関連事業等を含む)

オープンクリーンシステム「KOACH」は、『アクチュアルクリーン』及び「KOACH」導入による管理・コスト負担の緩和を訴求する営業活動により年度前半は順調に売上を伸ばしましたが、後半、企業の設備投資の急ブレーキにより大型機種の中止、先送りが発生し、昨年までの伸び率を維持することはできませんでした。

新製品第2世代機「鏡内侍ⅡG」は、新機能が高く評価され、順調に売上を伸ばしましたが、官庁向け浄化装置の受注は半減しました。

品目区分	2016年		2017年		2018年		2019年	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
■ 防じんマスク	3,950	49.8%	4,282	50.6%	4,082	49.0%	4,091	47.6%
■ 防毒マスク	1,738	21.9%	2,093	24.8%	1,891	22.7%	2,188	25.4%
■ マスク関連その他製品	1,423	17.9%	1,207	14.3%	1,189	14.3%	1,232	14.3%
小計	7,112	89.6%	7,584	89.7%	7,164	86.0%	7,512	87.3%
■ その他	824	10.4%	875	10.3%	1,162	14.0%	1,092	12.7%
合計	7,936	100.0%	8,459	100.0%	8,326	100.0%	8,605	100.0%

※品目別売上高につきましては、子会社による販売がないため、親会社の数値を掲載しております。

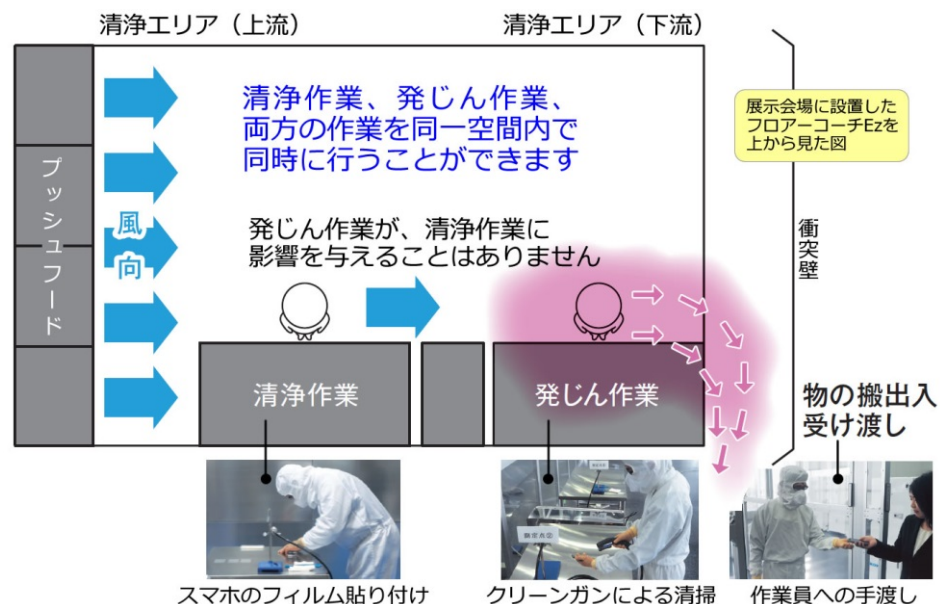
トピックス

◇クリーン / 展示会でアクチュアルクリーンを実演

アジア最大級のエレクトロニクスに関する展示会「ネプコンジャパン2019(東京ビッグサイト)」において、オープンクリーンシステム「KOACH」が作り出す“作業中の清浄度(アクチュアルクリーン)”の実演を行いました。

これまでのクリーンデバイスは、清浄空間内で一度発じんしてしまうと、その汚れが全体に拡散・滞留してしまうため、再び清浄度を回復するには、長い時間が必要でした。しかし「KOACH」は、空間内の粉じんを綺麗な空気でコロテンのように一気に押し出し、清浄空間を素早く回復することが出来る唯一のクリーンデバイスです。

そうした「KOACH」独自のクリーン化技術“アクチュアルクリーン”をご体感して頂くため、展示会では、同じ清浄空間の中で「清浄作業」と「発じん作業」が同時に行える様子を实演しました。(下図ご参照)



同展示会では「KOACH」ならではの気流コントロール技術、移動できるISOクラス1空間の実演など、クリーンデバイスの常識を超えた「KOACH」の利用法についてのご提案も行いました。その結果、これまでご採用頂いた以外の分野の方々からも多数のご質問を頂くなど、「KOACH」事業の今後益々の拡大を予感させる展示会となりました。

◇ヘルス / 内視鏡洗浄消毒装置の第2世代機を発売

胃や大腸などの消化器の検査・治療用として重要な役割を担っている内視鏡ですが、その一方で内視鏡の管路内の不十分な洗浄消毒(不適切なブラッシングなど)による細菌やウイルスへの感染事例が報告されています。当社グループは、そうしたブラッシング作業の不備を起因とする感染を防ぐと同時にブラッシング作業の均一化、労力軽減を目的とする内視鏡洗浄消毒装置『鏡内侍』を開発し販売しております。

この『鏡内侍』は、世界初の「自動ブラッシング機能」と「電解水生成装置」を搭載し、「確実に洗浄消毒でき、安全性にも優れる」、「短時間での洗浄消毒を可能にする」、「洗浄消毒コストを削減」等の特長により大変ご好評を頂いておりますが、更なる使い易さの追求と斬新で洗練されたデザインを施し「鏡内侍 II G」としてリニューアルし、発売いたしました。

【主な特長】

- ①新しく搭載した機能が作業負担を軽減し、ゆとりを生み出します
 - ・内視鏡のセット方式を刷新し初心者でも簡単にセッティングが可能
 - ・オリンパス社製、富士フィルム社製両方の内視鏡に対応
 - ・初心者でも簡単に操作可能な対話型操作パネルを採用
 - ・洗浄槽カバーは自動開閉、電解水は自動生成、有効塩素濃度もリアルタイム表示に
 - ・以下の機能を追加(予約洗浄消毒機能、内視鏡登録機能、履歴管理機能、漏水検知機能、アルコール送気機能)
- ②斬新で洗練された新デザインによって、設置スペースにゆとりができます
 - ・縦型のスリムボディで、設置スペースは従来の半分以下に
 - ・並列設置、壁付け設置が可能
- ③従来からの機能が、短時間かつ確実な洗浄消毒を実現し検査にゆとりをもたらせます
 - ・業界唯一の自動ブラッシング機能を搭載し、洗浄消毒時間は業界一の速さ(当社グループ調べ)
 - ・強アルカリ性電解水と強酸性電解水で確実に洗浄消毒



旧鏡内侍



鏡内侍 II G
医療機器認証番号
301AGBZX00019000

ユーザー満足度の高いサービスの提供をベースに、積極的な営業展開を図って参ります。

◇セーフティ / 女性向け使い捨て式防じんマスクを発売

女性の社会進出が進み、最近では保護具の着用を要する製造業や建設・土木業の現場においても女性（溶接女子、建設女子、土木女子など）の活躍する姿が見られるようになってきました。しかし、現在保護具は、成人男性を対象としたものが主流で、粉じん等の吸入防止用として使用される防じんマスクにおいても、女性の顔に合ったサイズや女性が使いやすく設計された製品は、まだまだ少ないのが実情です。

当社は健康障害防止の役割を担う保護具である防じんマスクのメーカーとして、女性の作業者の方々にも「安全」「安心」「快適」にマスクを使用して各作業現場で大いに活躍していただくことを目的に、多くの粉じん職場で使用されている当社製使い捨て式防じんマスク「ハイラック」シリーズをベースとして、厚生労働省の国家検定合格品であり、かつ女性が着用、使用しやすい新製品「サカキ式ハイラック330型／335型」を開発し、発売いたしました。



ハイラック330型
(標準型)



ハイラック335型
(排気弁付き)

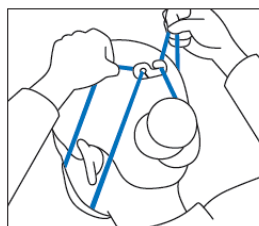


FFリップ

※爽やかさをイメージさせるラベンダー色を採用

【主な特長】

- ①安心の国家検定合格品
・330型：第TM729号、335型：第TM730号
- ②女性にもフィットするFFリップ
・3次元構造のFFリップが、顔とマスクの間にすき間が生じるのを抑えます
- ③ソフトな着け心地のしめひもTKフック
・TKフックを支点に“上ひも”、“下ひも”別々に締め具合を調整することが可能



TKフック



耳にかかる「上ひも」だけの張り具合を調整できます



髪形に応じて「フック」の位置を変えることができます

今後も当社は、男性、女性に限らず働く全ての方々が、「より安全」で、「より安心」して、「より快適」に作業ができる産業用マスクの開発、普及に努めて参ります。

◇セーフティ / 自衛隊装備品 防護マスクを3世代に亘り納入

当社グループは、これまで自衛隊装備品である防護マスクを1985年度装備化の「4形」、2000年度装備化の「00式」の納入を行って参りましたが、“呼吸追従システム”などの最新技術を搭載した次世代防護マスクが正式採用となり、当事業年度において「18式個人用防護装備防護マスク」として納入を行いました。

今回の「18式」納入により、「4形」、「00式」、「18式」と3世代の防護マスクを続けて納入することになりました。

「18式」は、隊員の方々の更なる防護性・安全性の向上並びに生理的負担の低減を実現するため、当社グループ独自の技術である“呼吸追従システム”が搭載されているほか、広視界を得るための1眼式のアイピース、吸収缶を左右に分けて装着する仕様など、最新技術が搭載されています。



4形



00式



18式個人用防護装備防護マスク

次期（2020年12月期）見通し

（単位：百万円／端数切り捨て）

次期は、中東情勢の悪化などの地政学的問題や新型コロナウイルスによる感染症の拡大によって国内外の経済は一層混迷を深めることが予想されます。こうした経営環境にはありますが、当社グループは、『クリーン、ヘルス、セーフティ』の各分野に対し、先進技術センターを中核とした研究開発、製品開発の推進及び営業強化、新市場の育成に努めて参ります。

マスク関連事業では電動ファン付き呼吸用保護具「ブレスリンク」シリーズや使い捨て式マスク「ハイラック」シリーズなどの高性能・高付加価値製品による産業用マスクの需要掘り起こしや医療、一般用マスクの市場シェアの拡大を着実に図って参ります。

その他事業では、主としてオープンクリーンシステム「KOACH」と新製品内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍ⅡG」の普及拡販を代理店と協働して行って参ります。

以上により、次期は売上高89億円（当連結会計年度比3.4%増）営業利益5億90百万円（同3.9%増）、経常利益5億40百万円（同2.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益3億90百万円（同4.9%増）となる見通しです。

中国武漢市で発生した新型コロナウイルスによって肺炎患者が急増し、その後、国内においても感染者が発生しました。その影響により中国はもとより国内においても、医療用マスク、感染対策用マスクの需要が急速に高まりました。

本年1月後半からマスクの大量注文や新規取引の要望が当社グループに多数寄せられ、その数は増産対応を行っても短期間では解消出来ないレベルに達しました。当社グループといたしましては、万一の場合を想定し、日本の医療機関を守るため、この分野に優先的に供給を行っておりますが、状況が備蓄品となっておりますので早期に終息した場合、売上の反動減となる可能性があり、また、景気の状態を不透明にしています。

このような理由から、上記のほか本資料にて公表しております次期の業績予想数値には、本件の影響を加えておりません。今後の動向を見極め、業績修正を行う必要が明確となった場合は、直ちに開示いたします。セグメント別の見通しは以下の通りです。

区分	2019年12月期 業績実績	2020年12月期 業績予想
売上高	8,605	8,900
営業利益	567	590
経常利益	528	540
親会社株主に帰属する 当期純利益	371	390
1株当たり当期純利益	74円21銭	77円91銭

(マスク関連事業)

当社グループは、フィット性の高いマスクの開発とともに、これらの普及のためフィットの重要性を啓発する活動を引き続き産業、医療、一般それぞれの分野で実践いたします。

産業分野においては、厚生労働省より第9次粉じん障害防止総合対策が示されていますが、更に化学物質による労働者の健康障害防止措置や化学物質等の管理のあり方に関する検討も続けられていることから、対象となる粉じんや化学物質への規制強化、管理強化に対応した新製品開発はもとより、顧客への適正な情報提供を行い、実需の掘り起こしにつなげて参ります。

医療、一般分野では感染対策用マスク「ハイラック」シリーズの感染防止に対する優位性を訴求し、全国の保健所や感染症指定医療機関等でのシェア拡大を図るとともに、一般市民の方々へも効果的な情報発信を行い、「ハイラック」シリーズの認知度を更に高めて参ります。

以上の取り組みにより、当事業の売上高は76億円(同1.2%増)を見込んでおります。

(その他事業／環境関連事業等を含む)

2019年3月、クリーンルームに関するJISが改正されました。本改正は、クリーンルームの高性能化、管理の厳格化を求めていることから、当社グループがこれまで訴求してきた『スーパークリーン(世界最上級の清浄度)』、『アクチュアルクリーン(実際の作業中の清浄度)』を実現するオープンクリーンシステム「KOACH」の優位性・実用性が更に高まると予想されます。

食品関連市場では、現在、食品ロスの一因とされる浮遊菌・カビ等の微生物の混入対策が進められており、「KOACH」はその対策に寄与する機器・設備として注目を集めております。今後、食品衛生管理のコンサルティングや教育を行う企業と連携した営業活動を進めて参ります。

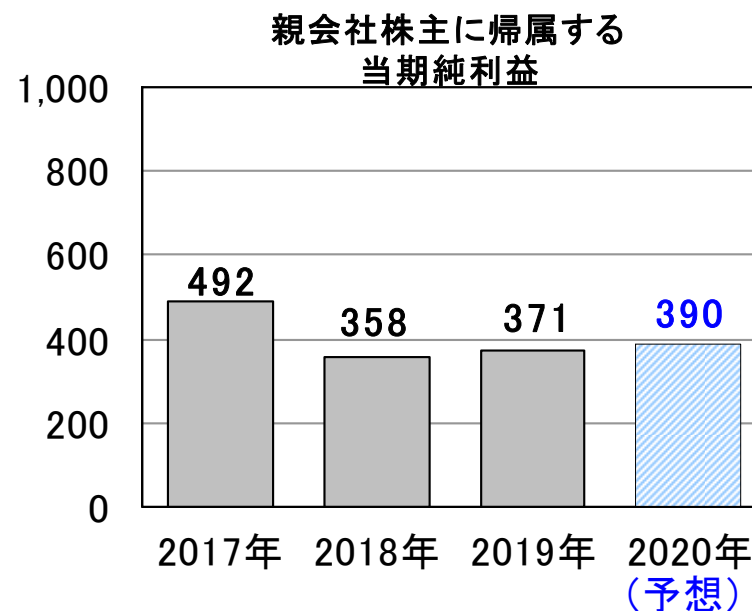
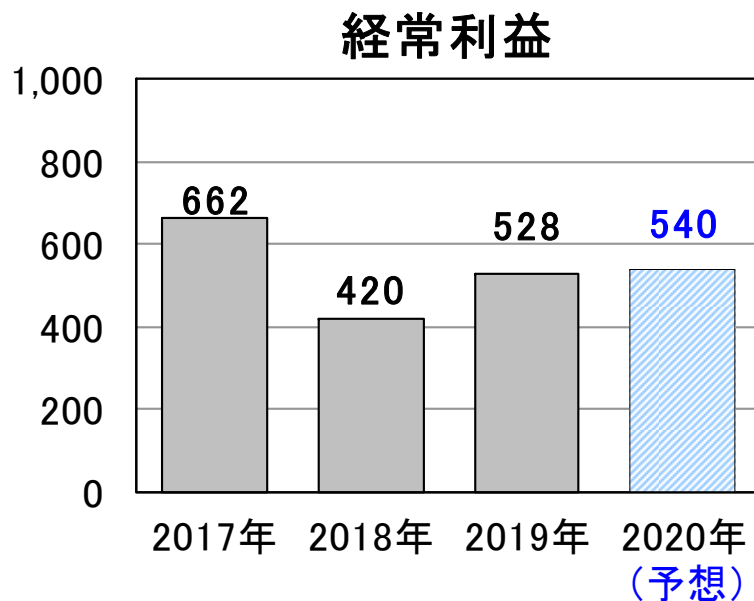
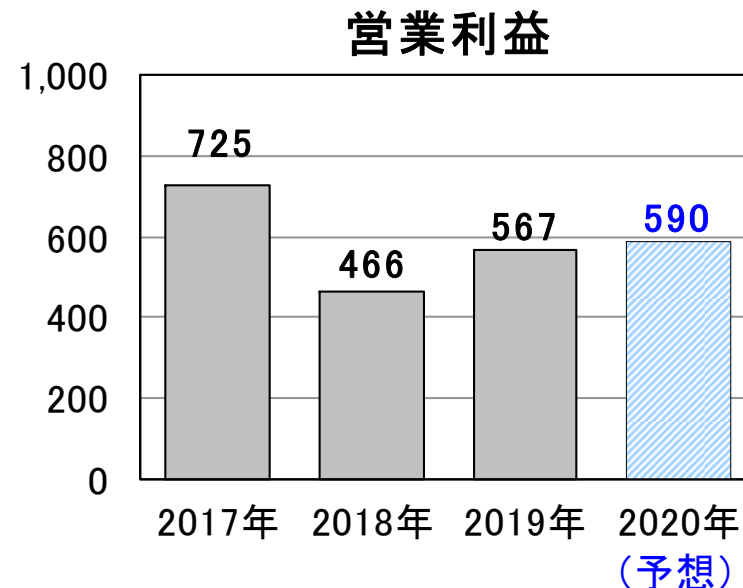
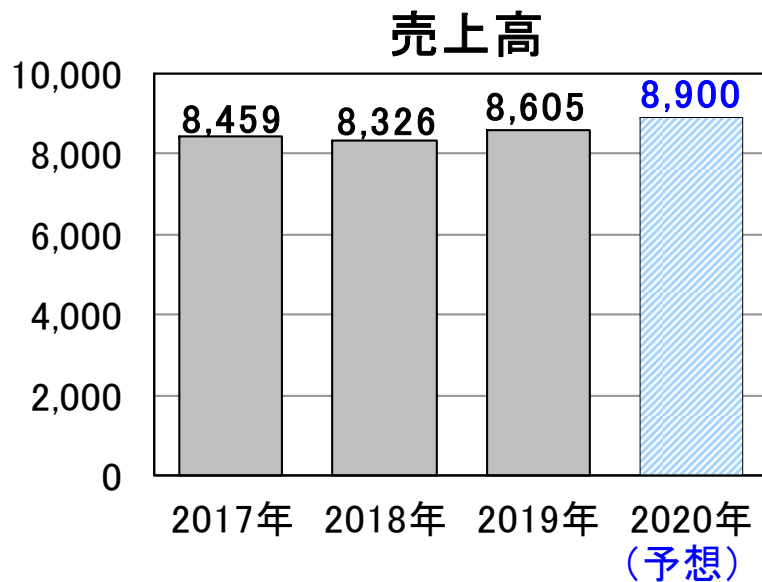
新製品の内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍ⅡG」は、業界唯一の自動ブラッシング機能を搭載し、電解水を使用することで洗浄消毒時間は業界一の速さを誇ります。誰でも簡単に洗浄消毒でき、洗浄消毒担当者の負担を大幅に軽減する機能を有するこれまでにない製品です。発売当初より初見の医師、看護師、洗浄消毒スタッフの方々から高い評価を受けています。

次期はこうした高いご評価を後ろ楯に既存機器の更新需要に加え、新規導入への普及拡大に注力して参ります。

これらの事業展開により、その他事業全体の売上高は13億円(同19.0%増)を見込んでおります。

次期（2020年12月期）連結業績予想

（単位：百万円／端数切り捨て）



本資料に記載されている業績予想数値等の将来に関する記述は、「2019年12月期決算短信〔日本基準〕（連結）」発表日(2020年2月12日)現在において、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

興研株式会社
広報・IR室

TEL 03-5276-1932
FAX 03-5276-6530
Eメール ir@koken-ltd.co.jp
ホームページ <https://www.koken-ltd.co.jp/>